

第2回登米圏域会議

【日時】令和4年1月13日（木）10時00分から12時00分まで

【場所】登米合同庁舎5階501会議室

【委員からの主な意見】

- ① コロナ禍でモチベーションの低下、意識の変化も見られるが、いろいろなアイデアを出し合っていくべきであり、農業関係者、学校教育関係者などの意見も取り入れるべき。
- ② 今はコロナと共存しながら、やっていかなければと、仲間といろいろな話しをしており、コロナが収束したら、コロナ前のように多くの方々を受け入れられたらと期待。
- ③ コロナ禍で、誘客が難しくなり、体験プログラムをできる限りオンライン化したところ、「手づくりソーセージ」の体験プログラムがヒットし、法人客からの引き合いも多くなった。
- ④ ウィズコロナとして、オンラインを整備し、いろいろな環境に対応していけば、まだまだできると感じるっており、現地に来ていただくため、興味を持っていただくためには進めるべき。
- ⑤ 登米圏域を含め、7つの圏域にそれぞれいいところがたくさんあるので、点と点を結び線となれば、いろいろな楽しさを提供できるのではないかと。
- ⑥ 地元を誇りを持ち、地元のPRができる人の育成は非常に大切であり、高等学校の授業の中で育成していく考えは良いが、小学校、中学校当たりから取り組むべき。
- ⑦ 観光に携わらなくても、観光客と接する機会もあることから、市民の一人一人が登米市の魅力を発信しているという自覚を育てていく必要。
- ⑧ 伝統芸能は、どの団体も後継者不足にある。今やられていても、5年度、10年後に継続できているかを考えると、なかなかイメージがわからない。やはり、「人」が大切。
- ⑨ 誰に向けて発信するかといったターゲティングが大切で、具体的な議論も必要。
- ⑩ 収益性の向上と目指すのか、交流人口の拡大を目指すのかによって、ターゲティングの議論や商品開発も変わってくる。
- ⑪ 観光客に満足感をもっていただくためには、学びや質の向上も必要。
- ⑫ 「おかえりモネ」の放送後、サイトへのアクセス数も急増し、モネ関連、登米市関連の物産販売も好調。
- ⑬ 「おかえりモネ」で紹介された「森舞台」はそれまで施設の中でも入館率が最も低かったが、放送されたことで、多くの方に見ていただき、入館率が大幅に向上。
- ⑭ 「おかえりモネ」の効果もあって、登米市は、非常に注目度が上がり、キーワード一つでの検索率も非常に高まっているが、記憶が薄れないように、深掘りし、広げていくことで、コロナ後に登米市を訪れたいという動機付けに繋がるインパクトをだしていくことが必要。
- ⑮ 「おかえりモネ」を見て、登米を訪れた観光客の声として、「ちょっと休める場所がない」、「写真ではきれいだ、ゴミが散乱していた」が聞こえてきたのは、残念。
- ⑯ 集客という点から見れば、イベント開催は必要であるが、コロナ禍ではほとんど開催されていないのが実情で、感染症に対応した運営体制を整備していくことが必要。
- ⑰ タクシーを使った観光は、今後増えると予想。観光ガイドができるドライバーが必要。
- ⑱ 登米市全域に対応できる観光ガイドは、ほんのわずかというのが現状。登米市内の観光を進めるに当たっては、観光ガイドの育成や観光地案内ができるタクシードライバーの育成が必要。
- ⑲ 地元の民間事業者だけではなく、官民連携したプロモーションや観光商品の売込みも必要。